

☐ 平成 27 年度の活動を振り返って

平成 27 年度は川崎市合同総合防災訓練、地区の自主防災訓練への参加や防災ブース出展、出前講座を計 11 回活動しました。前述の企画講座をはじめ、特に子どもを持つ家庭向けを意識した活動でした。

私たち「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」は 5 年前の東日本大震災をきっかけに 2012 年夏から活動を始めました。「女性の視点」に着眼し、特に災害時のトイレ問題の重要性を強く広く深く伝えてきました。今後も私たちは「女性の視点」による防災減災に関する活動を通して、「自分の身は自分で守る」という自助の意識を広めて参ります。

そして、2016 年 3 月 11 日は東日本大震災から 5 年。心より震災でお亡くなりになった方々へご冥福をお祈りするとともに、未だに深い悲しみに苦しめられている被災地にお住まいの方々、また被災地から遠く離れた不慣れた土地で生活しておられる方々に心やすまる日が訪れることをお祈りしています。

活動メンバー募集中!



女性の視点でつくる かわさき防災プロジェクト(通称:JKB)

取り組み内容

① 防災に関する調査研究・情報発信!

他地域との視察交流会やヒアリング取材を防災ニュースレターとしてまとめ、発信しています。



③ 区や自主防災組織への 防災イベント・出前講座

日常の暮らしの中で、生活者としての知見を活かしてできることを積み重ね、わかりやすい防災、誰もが取り掛かりやすい防災をテーマにイベントや出前講座を実施しています。

② 講座の企画と運営

「トイレ」「集合住宅」「避難所運営」など災害時にこれだけは知っておきたい事情と対策等について講座を企画しイチから運営を手掛けています。



★定例会議について★

活動日：月 1 回(第 3 土曜午後)
場 所：すくらむ 21
対 象：市内在住の女性 10 名

★申込方法★

すくらむ 21 配架の募集チラシをご覧ください。

★参加者の決定★

オリエンテーションをした上で、活動内容、活動趣旨をご理解いただける方については、メンバーとして次回以降のグループ活動・会議へご参加いただきます。

集合住宅で災害 その時あなたは 自分の子どもを守れますか？

製作：女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(通称:JKB) 発行：川崎市男女共同参画センター(愛称：すくらむ21)

防災・減災講座 第 5 弾を開催!

9 月 26 日(土)・10 月 3 日(土)に、お子様をお持ちのご家庭を対象とした 2 回連続ワークショップ型講座を開催しました。小さなお子様を抱っこしたパパさんママさんたちが延べ約 30 名集まりました。

講師に廣田信子氏(一級建築士 / マンション管理士 / マンションコミュニティ研究会代表)を迎え、集合住宅に住む子どもを持つご家庭での防災・減災の基礎知識を学び、万が一の災害時に備えるには何をすべきかを考えるきっかけとなる講演をしていただきました。

廣田氏は東日本大震災当時は液状化の激しい千葉県内にお住まいで、自身のマンションでの生々しい被災体験談を交えながら、建築士・マンション管理士という専門的な見地からの具体的な備えをお話してくださいました。初回講座では備蓄一覧表に今準備しているものやしていないものなどをチェック記入し、二回目の講座までに見直す課題を出されました。また、水の摂取量は一日 3ℓ が望ましいというけれど、その他にも乳幼児の清拭、新生児の沐浴などは思いのほか「水」を使うことが多いため、大目に水を備蓄しておく方が良いということも印象的でした。

ぜひ、皆さんも現時点の備蓄を点検してみてはいかがでしょうか？



高津区主催の「子育てフェスタ」に出展しました！ ～災害時のトイレの大切さを知ろう～

11月21日(土)、私たちJKBも災害時のトイレについて広く知ってもらうために、高津区市民館にて防災ブースの出展をしました。当日は、お子様にも伝わるように紙芝居で災害時のトイレの大切さを伝え、自宅での避難生活でトイレの処理についてどんな吸収剤が有効か参加者に実験体験をしてもらいました。同時に段ボールトイレや防災グッズを展示しており、「ぜひ、段ボールトイレを作ってみたい」「子どものために準備しておきたい」という声がありました。



段ボールトイレの作り方は過去の防災ニュースレター (vol.3) でも紹介しています。すくらむ21のホームページからダウンロードできるので、是非参考にしてください。

【URL】 <http://www.scrum21.or.jp/?p=5975#bousai4>

すくらむ21 防災

検索



女性の視点で考える 防災の知恵袋

今回は、いつも私たちが地域の防災訓練や出前講座で展示している「枕元セット」をご紹介します。この枕元セットは、もしもの時にこれがないと困るというものを、枕元に大判ハンカチやバンダナに準備しておくというものです。災害時に慌てて逃げる際にも、サッとその大判ハンカチごと握って避難することも可能です。

場合によっては、停電し真っ暗になり、地震の大きな揺れで周りに置いているものが移動したり散らばったりする可能性もあります。そこで、私たちは大きめの鈴を2つつけました。鈴があれば暗闇でも触ると鈴が鳴るので見つけやすく、目印にもなります。また、居場所を知らせる笛を吹くのは空気を吸う時より力が要りますが、鈴は少し揺らすだけで鳴ります。ちなみに私は阪神・淡路大震災で瓦礫の上を裸足で歩きケガをした経験から、厚手の靴下もセットにいれています。

避難生活を送るなかでは、いつも飲んでいる薬が手に入らない、非常食には固いものもあるので食べることができないなど、日頃不自由でないことが一瞬にしてとても不自由になることもあり得ます。皆さんもご自分が必要な枕元セットをご準備してはいかがでしょうか。

シニア世代向け枕元セット例

- 常備している薬 災害時には薬はすぐに手に入りません。
- 携帯電話(スマートフォン) ... SNSでも情報収集ができます。
- メガネ 自分に合った予備のメガネを準備しておくが良いです。
- 入れ歯 長期避難等になった際には安心して食事ができます。



◎枕元セット一例：こんな感じでさっと持ち出すことができます。鈴がついているので暗闇でも手さぐりで見つけることが可能です。

防災カードゲーム「なまずの学校」を体験しました！ ～紙芝居を楽しみながら学ぶ防災カードゲーム～

すくらむ21主催のこの講座に私たちJKBも参加者と一緒に体験してきました。この「なまずの学校」は、地震などの災害で発生する様々なトラブルを紙芝居で解決するのに最もふさわしいと思う「なまずカード(アイテムカード)」を出してもらい得点を競うゲームです。

例えば、「人が瓦礫に埋まっています。どんなもので助け出すことができますか？」といった場合に、手持ちのアイテムカードでどれが有効か考えだします。模範解答にちかいと得点が高くなります。参加した小学生の感想は、「自分の身を守るためにもハンカチなどを持って自分を守りたい」「地震が起きた時にやらなければならないことを色々わかってよかった」など、自分の身は自分で守ることを感じてくれた様子でした。

私たちJKBも今後は、このカードゲームを活用したお子さん向けの防災活動の輪も広げていけたらと思っています。

